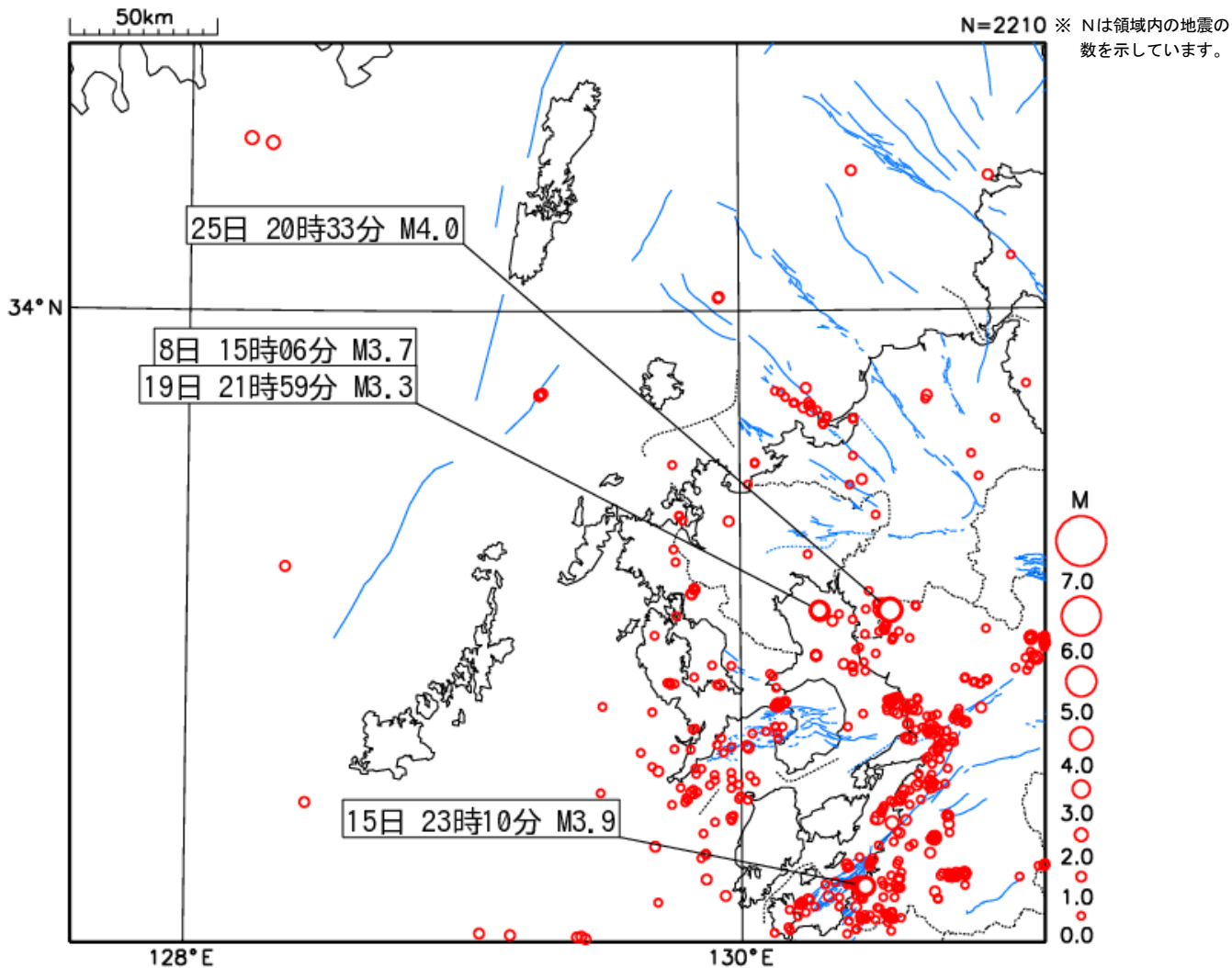


長崎県の地震活動概況 (2026年3月)

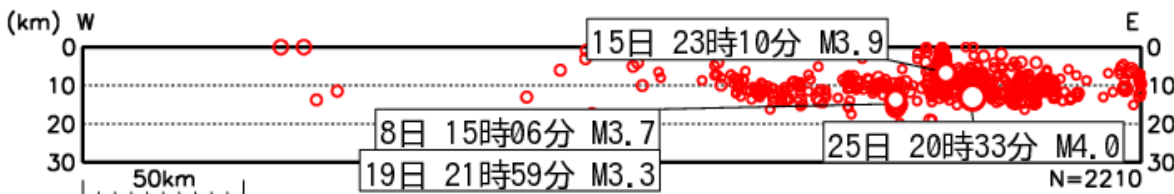
令和8年4月10日
長崎地方気象台

地震活動の概況 (2026年3月)

3月に長崎県内で震度1以上を観測した地震は4回でした(2月は1回)。詳細は2~5ページのとおりでです。



震央分布図 (2026年3月1日~31日、深さ30km以浅、M≥0.0)
※図中の青色の線は、地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示しています。



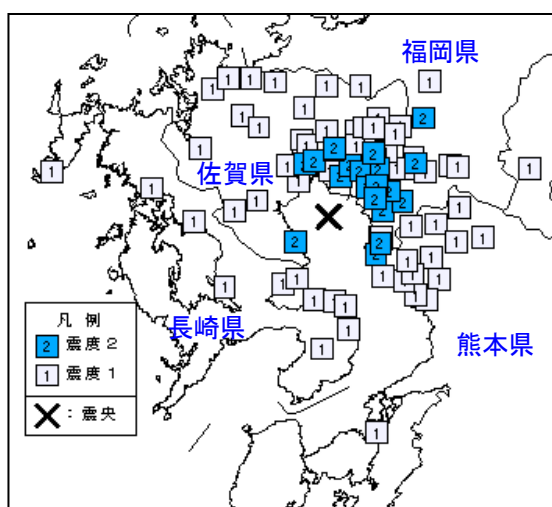
断面図 (2026年3月1日~31日、深さ30km以浅、M≥0.0)
(震央分布図を南の方から見た断面図です)

※ 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成している。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点(河原、熊野座)、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点(よしが浦温泉、飯田小学校)、2025年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点(平島、小宝島)、EarthScope Consortiumの観測点(台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東)のデータを用いて作成しています。

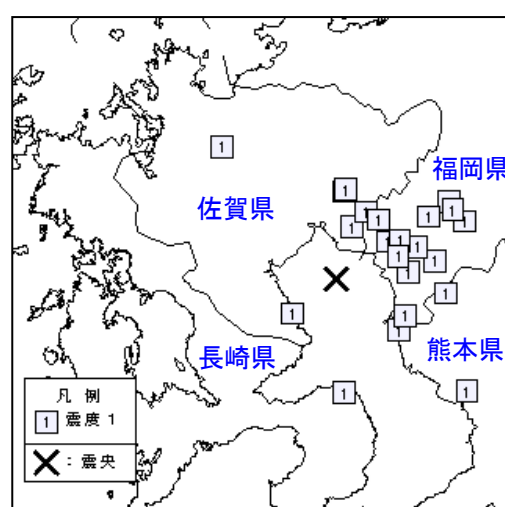
有明海

8日15時06分に有明海で発生したM3.7の地震（深さ15km）により、福岡県、佐賀県、熊本県で震度2を観測しました。長崎県では雲仙市のほか広い範囲で震度1を観測しました。（図1）。また、19日21時59分と同じく有明海で発生したM3.3の地震（深さ14km）により、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県で震度1を観測しました。長崎県では雲仙市で震度1を観測しました（図2）。

これらの地震の震央付近（図3領域a）では、2022年7月24日にM2.8の地震（深さ9km、最大震度1）が発生し、長崎県では雲仙市で震度1を観測しました（図3～4）。



3月8日15時06分 M3.7
図1 震度分布図（観測点別）



3月19日21時59分 M3.3
図2 震度分布図（観測点別）

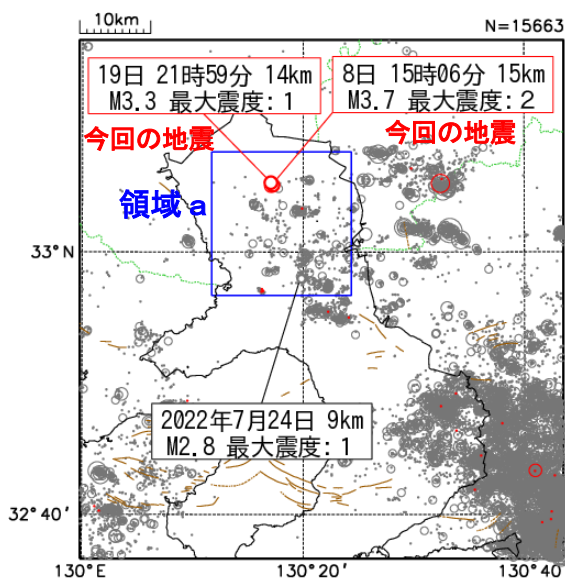


図3 震央分布図

(2000年10月1日～2026年3月31日 深さ0km～20km M \geq 1.0)
 ※2026年3月の地震を赤色で表示。
 ※図中の茶色は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

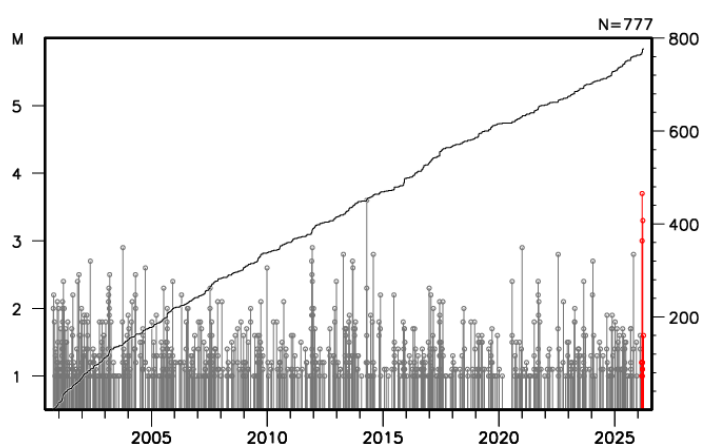
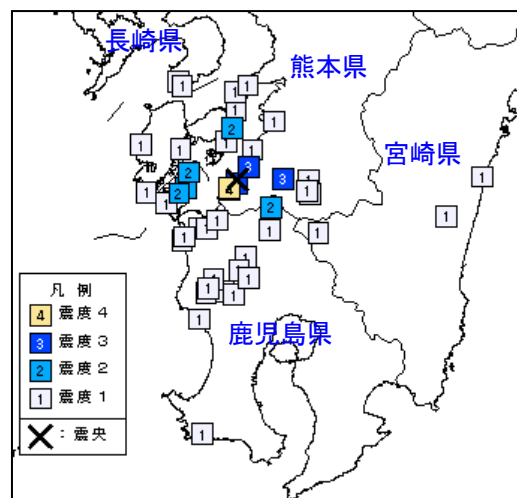


図4 図3領域a内の地震活動経過図及び回数積算図

熊本県天草・芦北地方

15日23時10分に熊本県天草・芦北地方で発生したM3.9の地震(深さ7km)により、熊本県水俣市で震度4を観測したほか、熊本県、鹿児島県、宮崎県、長崎県で震度3~1を観測しました。長崎県では南島原市で震度1を観測しました(図5)。

今回の地震の震央付近(図6領域c)は普段から地震活動が見られる領域で、2009年8月3日にM4.7の地震(深さ7km、最大震度4)が発生し、長崎県では南島原市で震度3を観測したほか、広い範囲で震度2~1を観測しました。また、領域bでは「平成28年(2016年)熊本地震」が発生しています(図6~8)。



3月15日23時10分 M3.9

図5 震度分布図(観測点別)

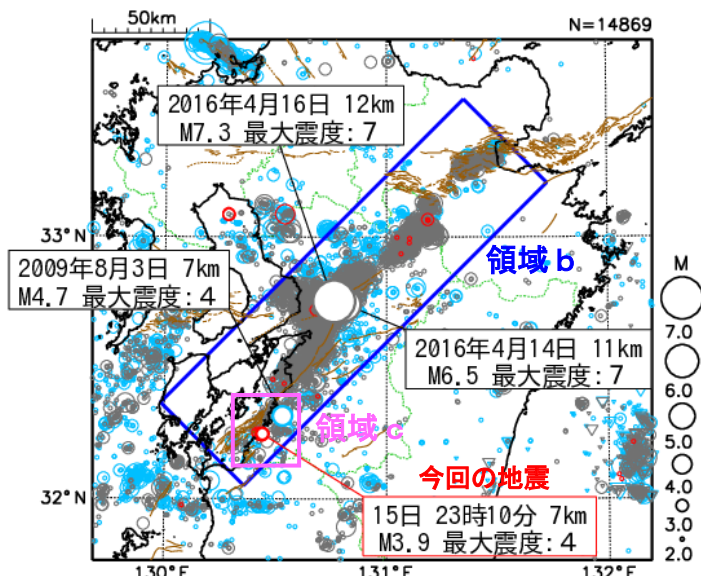


図6 震央分布図

(2000年10月1日~2026年3月31日 深さ0km~20km M \geq 2.0)

- ※2016年4月13日以前の地震を青色で
- ※2016年4月14日以降の地震を灰色で
- ※2026年3月の地震を赤色で表示。
- ※図中の茶色は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

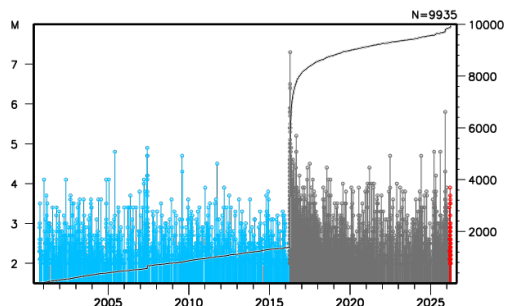


図7 図6領域b内の地震活動経過図及び回数積算図

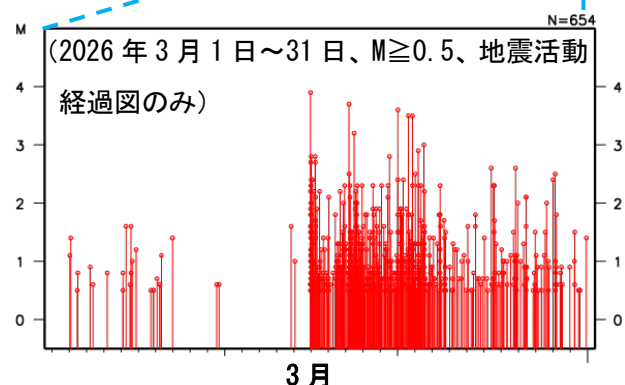
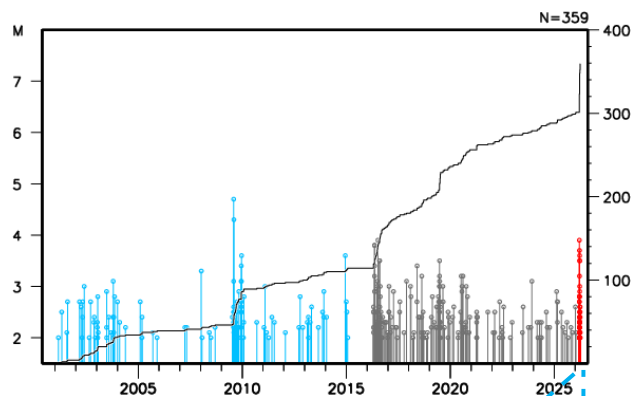
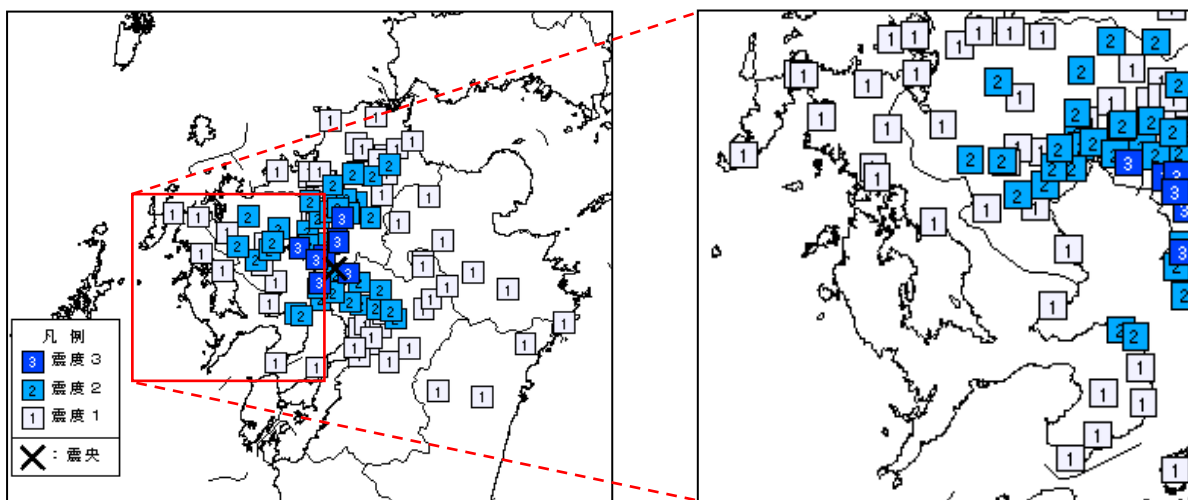


図8 図6領域c内の地震活動経過図及び回数積算図

福岡県筑後地方

25日20時33分に福岡県筑後地方で発生したM4.0の地震（深さ13km）により、福岡県久留米市、大牟田市、佐賀県佐賀市、熊本県和水町などで震度3を観測したほか、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県で震度2～1を観測しました。長崎県では島原市と雲仙市で震度2を観測したほか広い範囲で震度1を観測しました（図9）。

今回の地震の震央付近（図10領域d）では、2019年1月3日にM5.1の地震（深さ10km、最大震度6弱）が発生し、長崎県では雲仙市、島原市、南島原市で震度3を観測したほか広い範囲で震度2～1を観測しました（図10～11）。



3月25日20時33分 M4.0

図9 震度分布図 左：市区町村別 右：観測点別

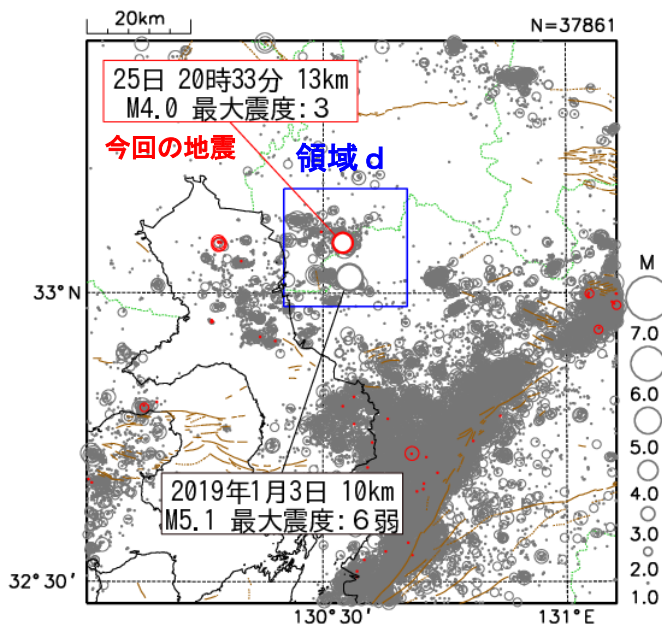


図10 震央分布図

(2000年10月1日～2026年3月31日 深さ0km～20km M≥1.0)

※2026年3月の地震を赤で表示。

※図中の茶色は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

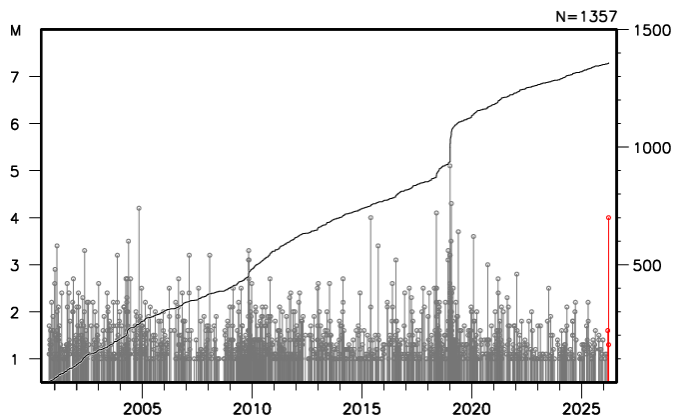


図11 図10領域d内の地震活動経過図及び回数積算図

長崎県内で震度1以上を観測した地震の表 (3月1日~31日)

地震発生時刻 各地の震度	震央地名	北緯	東経	深さ	規模
※2026年03月08日15時06分	有明海	33° 05.1' N	130° 17.2' E	15km	M3.7
※2026年03月08日15時06分	有明海	33° 05.0' N	130° 17.0' E	16km	M3.0
震度 1 : 佐世保市千尽町, 平戸市志々伎町*, 川棚町中組*, 諫早市小長井町*, 諫早市高来町* 大村市玖島*, 島原市下折橋町*, 島原市有明町*, 雲仙市国見町, 雲仙市小浜町雲仙 雲仙市瑞穂町*					
2026年03月15日23時10分	熊本県天草・芦北地方	32° 14.8' N	130° 26.4' E	7km	M3.9
震度 1 : 南島原市口之津町*, 南島原市加津佐町*					
2026年03月19日21時59分	有明海	33° 05.2' N	130° 17.0' E	14km	M3.3
震度 1 : 雲仙市国見町					
2026年03月25日20時33分	福岡県筑後地方	33° 05.2' N	130° 32.4' E	13km	M4.0
震度 2 : 島原市有明町*, 雲仙市国見町					
震度 1 : 佐世保市千尽町, 佐世保市八幡町*, 佐世保市世知原町*, 佐世保市鹿町町* 平戸市岩の上町, 平戸市鏡川町*, 平戸市志々伎町*, 松浦市志佐町*, 松浦市鷹島町* 松浦市福島町*, 川棚町中組*, 諫早市高来町*, 島原市下折橋町*, 雲仙市小浜町雲仙 南島原市口之津町*, 南島原市北有馬町*, 南島原市深江町*					

注) 震源要素 (緯度・経度・深さ・M) は、暫定値であり、データは後日変更されることがあります。

*を付した地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

※を付した地震については、ほぼ同時刻に近接した場所で複数の地震が発生したため、観測された震度はどの地震によるものか特定できませんでした。

「平成 28 年（2016 年）熊本地震」から 10 年 ～「熊本地震から 10 年」特設サイトの開設～

今年、甚大な被害をもたらした「平成 28 年（2016 年）熊本地震」（以下、熊本地震）から 10 年の節目となります。今回は熊本地震の概要について振り返るとともに、熊本地方気象台と大分地方気象台が開設した特設サイトを紹介します。

● 熊本地震とその特徴

2016 年 4 月 14 日 21 時 26 分に熊本県熊本地方を震源とする M6.5 の地震が発生し、熊本県益城町で震度 7 を観測しました。その約 28 時間後の 4 月 16 日 01 時 25 分に同じ熊本県熊本地方を震源とする M7.3 の地震（以下、本震）が発生し、熊本県の益城町と西原村で震度 7 を観測しました。このように、一連の地震活動のうちに 2 度も震度 7 が観測されたのは、気象庁の震度観測史上初めてのことでした。これらの地震は、政府の地震調査研究推進本部地震調査委員会（以下、地震本部）が長期評価の対象としていた活断層（布田川断層帯・日奈久断層帯）が活動したものと評価されています。本震発生後には、時間の経過とともに地震の活動域が熊本県から大分県にかけての広い範囲に拡大しました。気象庁はこの一連の地震活動の名称を「平成 28 年（2016 年）熊本地震」と決めました。

この熊本地震による人的被害は、熊本県で死者 275 人（災害関連死含む）、大分県で死者 3 人、熊本県、大分県、福岡県、佐賀県、宮崎県で重傷者 1,203 人にのぼりました（熊本県の死者数は 2025 年 4 月 11 日現在、熊本県による、その他は 2019 年 4 月 12 日現在、消防庁による）。また、震源域付近を中心に建物被害や土砂崩れなどが発生したほか、電気、ガス、水道、交通アクセスなどのライフラインにも甚大な被害を生じました。

● 熊本地震後の主な取り組み

（1）大地震の見通しの表現について

熊本地震で発表した地震活動の見通しについては、以下の課題が指摘されました。

- ・最初の大きな地震の後に、より大きな地震が発生したことにより、政府の地震本部が 1998 年（平成 10 年）にとりまとめた報告書「余震の確率評価手法について」に基づいて発表してきた、大きな地震が発生した後の余震の確率評価手法の判定条件が妥当でなくなったこと。
- ・「余震」という言葉が、より大きな地震、より強い揺れは発生しないというイメージを情報の受け手に与えた可能性があること。
- ・余震発生確率の値が通常の生活の感覚からするとかなり低い確率であると受けとられ、安心情報であると受け取られた可能性があること。

これらの課題に対処するため、地震本部は余震の確率評価手法の改良のほか、大地震後における地震活動の見通しや防災上の呼びかけの方針を検討した結果を、「大地震後の地震活動の見通しに関する情報のあり方」（2016 年 8 月）としてとりまとめ、公表しました（以下 URL）。

https://www.jishin.go.jp/reports/research_report/yosoku_info/

これを受けて気象庁は、大きな地震が発生した場合に以下のような呼びかけをしています。

- ・地震発生直後は、最初の地震と同程度の地震への注意を呼びかけることを基本

とし、地域特性に応じた注意喚起を行う。

- ・周辺に活断層等がある場合は、地震本部の長期評価結果等に基づいた呼びかけを行う。
- ・地震発生から1週間程度以降は、余震確率に基づく数値的な見通しを、非常時の確率等との比（例：地震発生当初の1/〇程度、平常時の〇〇倍）で表現し、付加する。

現在、気象庁が大きな地震（最大震度5弱以上）が発生した場合に発表している、地震活動の見通しや防災上のポイントなどについては、下記リンク先をご覧ください。

https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/aftershocks/index_whats_aftershock.html

(2) 活断層の調査

地震本部では、平成28～30年度に布田川断層帯・日奈久断層帯の総合的な活断層調査を実施し、活断層の活動区間や過去に発生した地震の時期などで新たな知見が得られました。調査の詳細については下記リンク先をご覧ください。また、熊本地方気象台は布田川断層帯でトレンチ調査を実施した東北大学と熊本大学の協力を得て、地層の剥ぎ取り標本を作製しました（後述する熊本地方気象台の特設サイト内でご紹介しています）。

平成28年熊本地震を踏まえた総合的な活断層調査のページ（地震本部）

https://www.jishin.go.jp/database/project_report/kumamoto_sogochousa/kumamoto_sogochousa-h28-h30/

● 「熊本地震から10年」特設サイトについて

熊本地震から10年という節目の年に当たることから、熊本地方気象台と大分地方気象台は、熊本地震に関する特設サイトを開設しました。特設サイトでは、熊本地震の概要や被害状況、当時の気象台の対応や地震に関する基礎知識などについてわかりやすく解説しています。モバイル端末からもアクセスできますので、どこからでも気軽に見ることができます。日本に住んでいる限り、「いつでも、どこでも、だれでも」大きな地震に遭遇する可能性があります。この機会に地震への備えや地震発生時の行動について考えてみませんか。

「熊本地震から10年」特設サイトのトップページ

熊本地方気象台



大分地方気象台



特設サイトのURL

熊本地方気象台：<https://www.data.jma.go.jp/kumamoto/The-2016-Kumamoto-Earthquake/index.html>

大分地方気象台：<https://www.data.jma.go.jp/oita/shosai/The-2016-Kumamoto-Earthquake-oita/index.html>